

編集発行責任者 吉田 和彦

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

E-mail:aotokouhou@jikei.ac.jp

INDEX

- 01. 診療科紹介(消化器・肝臓内科)
- 02. 診療科紹介(呼吸器内科)、診療科紹介(産婦人科)
- 03. 診療科紹介(耳鼻咽喉 頭頸部外科)、部署紹介(放射線部)
- 04. 新型コロナウイルス感染症の家族内感染にご注意を!

診療科紹介

●消化器・肝臓内科

消

化器病学会指導医3名、肝臓学会指導医1名、消化管学会指導医3名のもと、消化器、肝臓、消化管の専門医を中心に診断、治療にあたっています。

C型慢性肝炎、B型慢性肝炎の治療は外来中心で行い、自己免疫性肝炎・原発性胆汁性肝硬変については、先先代の戸田剛太郎元教授が専門としており、当院でも診断治療に積極的に取り組んでいます。

炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)に対しては、看護師、栄養士、薬剤師、臨床工学技士、ソーシャルワーカーらによるチーム医療を行っており、免疫調節薬(アザチオプリン、タクロリムス、サイクロスポリン)、白血球除去療法(GCAP, LCAP)や抗TNF α 抗体(レミケード®、ヒュミラ®, シンポニー®)、抗ヒトIL-12/23p40モノクローナル抗体(ステララ®)などの治療も積極的に取り入れ、入院が必要となる状態の患者さんが非常に少なくなってきました。

近年総胆管結石、化膿性胆管炎の患者さんが急激に増えてきており、ERCPによるドレナージ、碎石についても積極的に取り組んでいます。

膵腫瘍については超音波内視鏡、MRIによる総合的診断を行っています。



消化器・肝臓内科
穂苅厚史 診療部長

実績

2019年1月~12月実績 新規入院患者数1631名

●大腸ポリペクトミー(ESD含む)…660例(内ESD46例) ●胃ESD…45例 ●食道ESD…9例

●肝癌…132例 ●胆道ステント留置…129例 ●胆道碎石…112例

外来で加療している難病患者

●潰瘍性大腸炎…311人 ●クローン病…69人 ●ベーチェット病…10人 ●自己免疫性肝炎…64人

●原発性胆汁性胆管炎…104人 ●自己免疫性膵炎…5人

診療科紹介

●呼吸器内科

葛

飾区を含む東京都東地区医療圏には、呼吸器内科を標榜する総合病院は少ないこともあり、当院へ地域からの呼吸器診療の要望は高いものがあります。とくに今年は、新型コロナウイルス感染症の対応もあり、院内・院外からの診療依頼が例年以上に多く、忙しい毎日となりました。当院呼吸器内科は、日本呼吸器学会の認定施設で、7名の呼吸器専門医・3名の臨床研修医のもと、幅広く呼吸器疾患に応えるよう努力を続けています。御紹介いただく患者様の内訳は、胸部異常陰影、咳嗽、喀痰(血痰)、呼吸困難などに対する専門診療が多くを占めます。急性期の救急症例については、救急部・集中治療室(ICU)と連携して診療をおこなっています。疾患として気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性/慢性気管支炎、間質性肺疾患、急性肺炎/胸膜炎、膿胸、肺癌/中皮腫など、良悪性を問わず広く対応しています。特に肺癌については、胸部外科、放射線科と連携して診療をすすめ、適切かつ最新の治療を提供しています。現在、コロナ禍のなか、診療の混乱を回避するため、完全予約制にて新患症例を受け入れております。



呼吸器内科
児島章 診療部長

実績

【疾病別のべ入院患者数(主なもの:2019年1月~12月)】

●肺癌…415例 ●肺炎・胸膜炎…65例 ●間質性肺炎…67例 ●喘息・慢性閉塞性肺疾患…54例

●産婦人科

周

産期の診療。助産師外来が開設されました。よりきめ細かい指導を行っています。合併症を有する妊娠については他科と連携して管理を行っておりますが、すべての合併症に対応することはできませんので、当科として最善の医療を提供できるよう、より高次の医療機関とも連携をとりながら診療にあたっております。婦人科領域では特に婦人科悪性疾患について進行がん、再発がんを含めて集学的治療を目指しており、診断から治療まで一貫した管理を行っています。初期の子宮体がんについては、保険適応のある範囲で腹腔鏡手術を導入しております。一方良性疾患については、症例に応じて腹腔鏡手術を取り入れ、治療の選択肢の一つとして可能な範囲でご提示しております。



産婦人科
斎藤元章 診療部長

実績と研究

【診療実績(2019年度)】

●分娩件数:354件 ●手術件数:のべ457件(悪性腫瘍手術79件)。

腹腔鏡下子宮体がん手術の認可施設。

婦人科悪性腫瘍専門医研修施設、腹腔鏡下手術技術認定医研修施設

●婦人科悪性腫瘍研究機構臨床研究参加施設であり、婦人科悪性腫瘍の集学的管理に重点をおいています。(放射線治療、各種抗がん剤を含めて手術術式の改良など安心、安全を追求しながら悪性腫瘍の管理を行うことを目的とした臨床研究をすすめている)。

診療科紹介

●耳鼻咽喉・頭頸部外科

あ らゆる疾患に対応していますが、その中で特に慢性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内副鼻腔手術、鼻中隔矯正術などの症例数が多く当科の得意分野といえます。当科の特徴として入院患者さんの約半数は臨時および救急の患者さんであることです。急性扁桃腺炎、扁桃周囲膿瘍、喉頭浮腫、頸部膿瘍などの急性炎症性疾患、急性感音性難聴、顔面神経麻痺、めまい症などの疾患で、可能な限り受け入れるようにしております。また平成24年度より睡眠時無呼吸の入院検査ならびにCPAP導入やそのための検査（タイトレーション）を開始しております。（入院検査は現在中止中。）

コロナの影響もあり、昨年4月から外来の縮小や、手術の全面中止としておりましたが現在では手術も再開し、手術数、外来数共に例年近くまで増加してきております。



耳鼻咽喉・頭頸部外科
飯田誠 診療部長

実績

【2019年4月～2020年3月平均】

- 外来患者数…1287(うち初診)290 ●入院患者数…49 ●紹介患者数…158
- 2019年度の主な手術症例数 ●内視鏡下鼻副鼻腔手術…126 ●下鼻甲介粘膜切除術…89
- 鼻中隔矯正術…53 ●鼻副鼻腔腫瘍摘出術…5 ●眼窩骨折整復術…3 ●アデノイド切除術…73
- 口蓋扁桃手術(摘出)…224 ●鼓膜(排液換気)チューブ挿入…80 ●先天性耳瘻管摘出術…3
- 深頸部膿瘍切開術…3 ●気管切開術…20 ●顕微鏡下喉頭微細手術…5 ●顎下腺手術…2
- 耳下腺手術…13 ●甲状腺手術…11 ●頸嚢摘出術…1 ●リンパ節摘出術…10 合計 978

部署紹介

●放射線部

放 射線関連装置は慈恵他機関と同様に最新かつ高性能な装置が導入されています。一般撮影装置(胸部や腹部、骨の写真を撮影)3台、X線透視装置(造影剤や内視鏡を使用)2台、心臓(冠動脈)検査に対応する64列CT装置2台、MRIは1.5テスラ装置2台、超音波診断装置3台、血管撮影装置2台、マンモグラフィ、骨塩定量、ガンマカメラは各1台、そして放射線治療装置1台を有します。

特にマンモグラフィは令和元年に更新し、最新の3Dマンモグラフィ(トモシンセシス)、マンモトーム(マンモグラフィ下生検)機能により従来では描出が難しかった小さな病変、早期の病変を見逃しません。担当する診療放射線技師につきましては患者さんの安心で安全な医療を心がけています。また、万全な感染対策(新型コロナ等)を行っていますので安心して検査を受けることができます。

医療被ばくに関する質問にもお答えいたしますので、来院の際はお気軽にお尋ねください。



放射線部
櫻井智生 技師長

新型コロナウイルス感染症の家族内感染にご注意を!

1 現在、家族内感染が多くを占める

2021年2月現在、新型コロナウイルス感染症は第3波の真っ只中で感染者が増加し、誰もがいつ感染してもおかしくない状況です。感染場所は当初は夜の街が問題でしたが、市中に蔓延し、外から家庭へ持込まれた後に家族内で広がる家族内感染が多くを占めています。

新型コロナは症状が出る2日前から感染力があるため、症状が出たときにはすでに周りに感染している可能性があります。そのため、一緒に生活をしている家族の中にウイルスが入ってしまうと家族内感染が起きやすく、防ぐのは大変難しくなります。



感染制御部
吉川晃司 診療部長

2 感染が起きやすい場面とは

新型コロナは主にウイルスを含む飛沫を吸入したり(飛沫感染)、汚染されたものを接触した手指を介して(接触感染)、うつります。「密閉・密集・密接(3密)」の環境で広がりやすいほか、これまでの調査で「マスクを外した状態」「飛沫がとぶ会話」、とくに会食の場面で多くの感染がおきていることが明らかになっています。



3 家庭内にウイルスを持ち込まないために

では、外から家庭内にウイルスを持ち込まないためにはどうしたらよいでしょうか。

1) 日頃から「感染が起きやすい場面」を避ける行動する

大人数での会食、カラオケは大声になり飛沫が飛びやすく、感染リスクが高まります。さらに飲酒を伴う場合は注意力が低下し、大声となります。最近では飲食店に加えて、自宅でのホームパーティや親戚の集まりによるクラスターも報告されています。それゆえ、一緒に住んでいる家族以外との会食は人数が何人であろうと控え、会話をするときにはマスクをつけましょう。

2) マスクの着用、手洗い・手指消毒の徹底

新型コロナは飛沫の吸入や汚染されたものを接触した手指を介して感染するので、防ぐためにはマスクの着用、手洗い・手指消毒が最も大切です。マスクは鼻出しをせず正しく付け、「感染が起きやすい場面」では必ず着用して下さい。手洗い・手指消毒は食事の前、トイレの後に加えて、外出後や共有のものを触った時、顔・目・鼻・口に触る前、咳やくしゃみ、鼻をかんだ後などのタイミングも忘れずに行ってください。

4 家庭内での感染防止について

万が一感染者が出た場合、家庭内に拡げないための注意点を紹介します。①家の中でのマスク着用、②こまめな手洗い・手指消毒、③タオル、食器などの共有を避け、手で触れる共有部分を消毒する、④他の人と部屋を分ける、⑤感染者の世話をする人を限定し、その人の体調を毎日確認する。詳しい情報は東京都のホームページをご確認ください。

5 最後に

高齢者や基礎疾患のある方など重症化し易い方がいる家族では、とくに家族一人一人が自覚を持って家庭内にウイルスを持ち込まないよう心がけてください。

